

アズマツメクサ属の外来種

会長 勝山輝男

『神奈川県植物誌2018』でナガエアズマツメクサ *Tillaea peduncularis* Sm. (*Crassula peduncularis* (Sm.) F.Meigen) とエダウチアズマツメクサ *T. macrantha* Hook.f. (*C. ducumbens* Thunb.) の2種の日本新産帰化種を神奈川県海老名市、三重県、和歌山県に記録しました。アズマツメクサ属 *Tillaea* (海外では *Crassula* に含めることが多い) は日本ではアズマツメクサ *T. aquatica* L. (*C. aquatica* (L.) Schönl. が北海道〜九州に自生し、外来種としてコケマンネングサ *T. muscosa* L. (*C. tillaea* Lester-Garland) が三重県、滋賀県、奈良県、香川県で記録されています(帰化植物写真図鑑2巻 p.87 参照)。

また、『神奈川県植物誌2018』の刊行直後に Fujii et al (2018) はナガエアズマツメクサを岐阜県、大阪府、京都府、奈良県に、アズマツメクサモドキ *T. saginoides* Maxim. (*C. saginoides* (Maxim.) Bywater et Wickens) を岐阜県から報告しました。ナガエアズマツメクサは関東地方南部から近畿地方にかなり広がっている可能性があります。

これら5種の区別を以下の検索表に、ナガエアズマツメクサとエダウチアズマツメクサの種子を図に示します。

- A. 花は3数性、袋果は2種子を入れる
.....コケマンネングサ
- A. 花は4~5数性、袋果は4種子以上 →B
- B. 各節に花は2個、4~5数性、花弁は萼と同長か短く、種子表面には全体に半球状の細突起がある
.....エダウチアズマツメクサ
- B. 各節に花は1個、4数性、花弁は萼よりも長く、種子表面には縦に畝がある →C
- C. 花後に花柄は伸びない.....アズマツメクサ
- C. 花後に花柄が伸びて長さ5~10mmになる →D
- D. 種子表面の畝はアズマツメクサ同様にしわがある程度.....アズマツメクサモドキ
- D. 種子表面の畝には半球状の小突起が列生
.....ナガエアズマツメクサ

在来のアズマツメクサは果実がほとんど無柄なので、果実に長さ5~10mmの柄があるナガエアズマツメクサやアズマツメクサモドキとは容易に区別できます。しかし、この類の種子は長さ0.3~0.4mmと非常に小さく、実態顕微鏡で種子表面全体に小突起があるか、縦の畝があるかどうかはわかりませんが、畝に小突起が列生していることを確認するのは難しく、ナガエアズマツメクサとアズマツメクサモドキの区別は難しいかもしれません。

ネットで画像を検索すると、“三河の植物観察” (<https://mikawanoyasou.org/data/azumatumekusa.htm>) のアズマツメクサの画像は各節に左右2個の花がつき、花弁が萼と同長か少し短く、種子の表面全体に細突起が見えるのでエダウチアズマツメクサと思われます。エダウチアズマツメクサももう少し広がっている可能性があります。

和歌山県のナガエアズマツメクサは七草採りの水田で見つかり、3月には枯れてしまったそうです(山本, 2006)。エダウチアズマツメクサも村瀬(2014)によると和歌山県では秋に発芽して、3月から開花が観察されています。目立たない植物ですが、2~4月に湿地や水田を探すともしかしたら見つかるかもしれません。

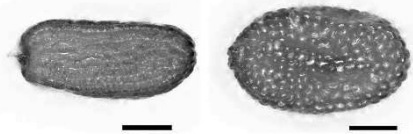


図. ナガエアズマツメクサ(左)とエダウチアズマツメクサ(右)の種子 いずれも海老名市産スケール:0.1mm

文献

- Fujii, S., T. Yamashiro, S. Horie and M. Maki, 2019. *Crassula peduncularis* and *C. saginoides* (Crassulaceae), newly naturalized in Japan, and their genetic differences from *C. aquatica*. Acta phytotax. Geobot. 70 (2): 119-127.
- 村瀬ますみ, 2014. 和歌山県の帰化植物. 紀州生物, (43): 20-24.
- 山本修平, 2006. ゴウシュウツメクサとなるか. ことのうら, (80): 10-11.